

# 異なるフィールドで

くしろ  
釧路市長(北海道) **蝦名大也**  
えびなひろや



## 友人とアメリカへ

市長に就任後の平成22年4月に、プライベート休暇を取って、中学時代からの親友と2人でアメリカに行ってきました。

私としては、市長職が休暇を取ることに、それほど深い考えも無かったものの、歴代市長がプライベートで休暇を取ることとは初めてのこと、しかも海外へ。前例なきケースに役所の対応は大変だったようです。アメリカへは、友人の人脈で山崎直子宇宙飛行士が乗るスペースシャトル「デイスカバリー号」の打ち上げに招待いただいた



釧路市子ども遊学館に山崎宇宙飛行士の写真を展示

もので、50代男2人で有意義な9日間を過ごすことができました。

## 23年前、アラフォー・それぞれの挑戦

物語は、平成10年・39歳の時にさかのぼります。当時私は釧路市議会議員で、友人・白崎修一氏は麻酔科医師として釧路市内の総合病院に勤務しておりました。彼はニューヨークでの病院勤務も経験しており、よく2人で飲みながら日本と海外の文化・風習・制度の議論(教わる)がほとんどでしたが、をしていたものです。その夏・8月。私が翌年春の北海道議会議員選挙への出馬を表明した直後に彼から電話があり、激励の飲み会。そこで彼が宇宙飛行士選抜試験に応募し、書類選考を通り第1次選抜も合格したとの話を聞いたものです。選抜試験は第2次、第3次と続き、翌年2月に合格発表予定。私の選挙は4月です。で、「ダブル合格を目指そう!」と、2



野口宇宙飛行士と交信中の筆者(平成22年1月)

人の結団式になりました。目標に向かってお互い頑張りながら、次なる朗報・選抜ファイナリスト8人の知らせに、3カ月ぶりの乾杯。ラストパートへの

気概を高めました。年が明けた2月10日が最終選抜の発表です。彼から正午過ぎに電話があり、「ダメだった。蝦名は必ず勝てよ!」と。世の中思い通りにはならないものの、私はなんとか初陣を飾ることができ、彼も自分のことのように喜んでくれたものです。そして、宇宙飛行士に選抜された3人(古川聡氏・星出彰彦氏・山崎直子氏)の最初の打ち上げを一緒に見に行こうと誘ってくれたのが始まりでした。

スペースシャトルの打ち上げ見学には、搭乗する宇宙飛行士に一定の招待枠があるようで、そこに私を入れてもらうようお願いするとの彼の言葉が10年後に現実のものとなりました。山崎宇宙飛行士の当初の打ち上げ予定は平成22年3月で、議会中のため諦めておりましたが、4月5日に延期となり、まさに「神のお告げ」。万難を排しての出発となります。

打ち上げは、米・フロリダ州のケネディ宇宙センター。2日前の3日午後、オーランド空港へ到着。国際免許も用意し、レンタカーを借りて2人で移動。しかし私の定位は友人の運転する車の助手席です。夜にJAXA主催のパーティーがあり、スーツを着たのはその日限り。翌日は山崎宇宙飛行士の壮行会。この壮行会が印象的でありました。メンバーは第1次選抜試験合格者の方々を中心で、部外者は私1人だけでしたが、友人が自分の親友で郷里の市長も



発射台で打ち上げを待つディスカバリー号

静けさが増す中、発射台に光が見えます。それから20秒弱で、ごう音とカメラの三脚が倒れるほどの空気振動が到達します。ものすごいパワーで、ゆっくりと天空に向かうシャトルとジェット噴射の軌跡に涙を流す人、拍手の音や「グレイト」の歓声



見学したアポロ・サターンVセンターの様子

参加すると紹介してくれたこともあり、皆さんと親しくお話しすることができました。そこで改めて感じたことに、選ばれる人は、高いミッシェンであるほど、魅力あふれる人間性豊かな人になるのだと。もちろん、全員抜群に優秀なのは当然ですが、打ち上げ当日は午前1時集合、バスに乗り込みケネディ宇宙センターへ。関所を幾つか通過し、1時間ほどでスペースシャトルの発射台から6kmほど離れた特別見学者席に着きました。隣接するアポロ・サターンVセンターなどを見学しながら打ち上げを待ちます。

午前6時過ぎ、空が白んで、薄明るくなる中、国際宇宙ステーション（ISS）が上空を通過するとのアナウンス。ISSの光を目で追っていると午前6時21分、打ち上げの瞬間です。

が沸き上がります。本当に人類は偉大だと感じたものです。

予定通りに打ち上げが終了し、残った期間はデイトナ・インターナショナル・スピードウェイやタンパ湾のダリ美術館などを回ってきました。それぞれの施設ではガイドが説明してくれますが、英語のできない私には理解できない悲しい現実があります。朝から晩まで運転してもらっている友人に通訳まで頼む訳にもいかず、ガイドの側で、知らない単語を飛ばしながら説明文を読んで（見て？）おりました。英語はできた方が絶対に得です。

### 都市と地方、人工物と自然物

今年、13年ぶりに宇宙飛行士の募集がありました。文系にも枠が広がり、友人同様に地方で活躍している多くのチャレン



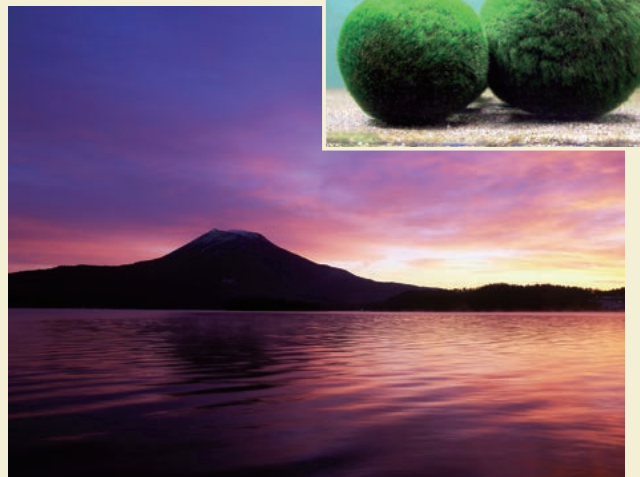
多様な動植物が暮らす日本最大の「釧路湿原」



「湿原の神」と呼ばれる特別天然記念物「タンチョウ」

と釧路湿原の二つの国立公園があります。その中の、阿寒湖で生息する世界でただ一つのマリモは、生育に必要な光合成に最も非効率な球状であり、机上の計算では成り立たない植物だそうです。自然も宇宙も人工物でない世界ですから、わがまちや地方での暮らしが人の幅を広げると確信しています。

世界で唯一の大型球状マリモ（最大直径は30cmを超える）



特別天然記念物である「阿寒湖のマリモ」が生息する「阿寒湖」

ジャーが挑戦すると思います。

ある書物に都会と地方について、都会は効率性・利便性を求め、計算された人工物で、地方はその枠を超える自然豊かな存在であるとの印象的な表現がありました。

確かにわがまち釧路市には、阿寒・摩周